

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

生きものであることを決して忘れずに、生き方を決め、社会をつくっていくという基本のうえで、人間の独自性を生かす必要があります。

①人間の最大の特徴は、二足歩行です。進化の話を細かくする余裕はありませんが、二足歩行の結果、自由な手を持つことによつて生まれた技術力、脳が大きくなり、しかも大脳皮質が発達することで生まれた知性、のどの構造の発達の仕方も含めて言語を話せるようになったこと、相手の心を理解し思いやる気持ちから生まれる共感、それをもとにした協力的行動は、重要な特性とされます。

本当は一つひとつ丁寧に考えて、人間とは何かという問いに答えることと重ねながら社会のありようを考えることが大事ですが、ここでは新型コロナウイルス感染症^{注1}。パンデミックを踏まえての協力的行動を中心に、人間らしさを考えたいと思います。知性、技術、言語が人間らしさを支えていることはよく語られますが、協同、その底にある共感に注目することが、今特に大事だと思いますので。

狩猟採集生活をしていた私たちの^②ソセンの生活は、まず、単位として家族がありました。人間の場合、二足歩行になったため、本来難産であるうえに赤ちゃんの頭が大きいので^③ミジユクの形で出産することもあり、育児に手間がかかります。

④人間は、アフリカの森のもつ力によつて生きている^{注2}。霊長類の仲間のなかでは弱い存在でした。弱さを象徴するのが、今も私たちの口にある犬歯です。多くの哺乳類は大きな犬歯、^⑤牙で獲物に噛みつきま

す。歯と言われて、ボタンをつけるときに役立つ程度です。ゴリラやチンパンジーの赤ちゃんは、お母さんの体毛にしがみついています。人間はそうはいきません。床に仰向けに寝かせます。仰向けの姿勢は、完全な^⑥ムボウビ。しかも人間の赤ちゃんはお母さんを求めて大声で泣きます。「今ちよつと忙しいの、待っててね」という時もよくありますが、狩猟採集の時代はうっかりすると、野生動物に連れて行かれてしまいます。誰か面倒を

見る人が必要、つまり共同保育が不可欠です。ここでお姉さんやおばあさんが重要な役割をしたに違いないと考えられます。これは人間の大きな脳を育てるために必要なことだったのですし、お父さんも育児に関わらなかつたはずはありませんが、狩猟に出かける役割がありますので、ここはお姉さんおばあさんが活躍です。⑦このような保育が家族を単位とする暮らしの基本を生み出したと考えられます。

もう一つ、家族を単位として行われたのが「⑧共食」です。そもそも二足歩行を始めたのは、自分が収獲した果物などを手に載せて家族のところに運ぶためだったのではないかという⑨セツに接したときは、待っているであろう家族を思いながら歩いている姿を思い浮かべて楽しくなりました。【A】

特に火を用いるようになってからは、私たちがバーベキューを楽しむのと同じ光景があつたのではないかと想像してしまいます。他の霊長類は、自分が持っている食べ物物をねだられて分けてあげることがあつても、決まつた仲間が食べ物物を共有し共に食べることはありません。【B】

今のように決まつたものを栽培して食べるのではなく、採集するものの中には新しい種もあつたでしょう。もしかしたら⑩ドクがあるかもしれない……相手の力を信じ、自分のことを思つて採つてきてくれたとありがたく思いながら共に食事をする関係は人間だけのものです。【C】

狩猟は多くの男手が必要としましたから、いくつかの家族が集まつての共同体ができました。⑪このように重層構造をもつ社会をつくつたのが人間なのです。協力して次の世代を育て、共に食事を楽しみ共同体の一員としても活動するという複雑な人間関係のなかで、相手を思いやる心をもつ人々がつくる社会が人間特有のものとして生まれたのです。【D】

長い歴史をたどってきた今、私たちは、絆、利他、つながりという言葉に目を向けましたが、実は私たち人間が他の生きものたちとは異なる文化、文明をもつ私たちの生き方の始まりが、共感であり協同行動であつたことが近年の研究で分かってきました。近年この事実を明らかにする報告が増えており「人間は本来いいやつなんだ」とうれしくなります。もちろん、すべてが共感であるはずはなく、⑫利己心、さまざまな欲望など複雑な気持ちをもつて生きていくのが人間ですけれど。【E】

私たちが今暮らす社会では、過剰な競争とそれに勝つことを求められます。これは決して楽しい生き方ではありませんし、その結果、暮らしやすい社会が生まれたかと言えばその逆でしょう。その中で出合ったパンデミックが「つながり」の重要性を浮き彫りにし、そこから考えていったら、実は人間の特性の一つに共感があることが分かりました。

私たちの本性にそれがあるのに現実にはそれが表に出ていないのはなぜか。共感を基本に置く社会づくりをするにはどうしたらよいかを考えます。

まずは、本来の姿をよく見つめることです。新型コロナウイルス・パンデミックの中で、実体でのふれあいの重要性を多くの人が実感しました。

病院や介護施設は家族でさえ面会ができない状態になり、辛い思いをしました。せっかく入学した学校で入学式や文化祭など、皆で一緒に同じ体験をすることができず、なんのために入ったのだろうと悩む若者にも出会いました。オンラインでの授業の便利さは分かり、知識の習得だけだったらそれでできるのかもしれないけれど、クラスメイトという感じはしないし……という話を聞くと、⑬の大切さを思います。

すでに述べたように、人間は家族を単位として協同する社会をもつという生き方を選んだ生きものです。しかも家族がいくつか集まって、少し大きな集団での協同もしました。家族は10人程度から始まる集まり、日常お互いに助け合って狩猟などをする仲間は30人程度を基本とする集まりとされます。縄文時代の村落の様子を見ると、さらに大きな100人を超える集まりが見られます。人類誕生後、脳が大きくなってきたことと連動するのは、時間をかけた生活史（長い寿命と長い幼年期・思春期）と集団サイズであるという研究があります。集団サイズが大きくなるのですが、今のところホモ・サピエンスの持つ1500ccくらいの脳は、150人ほどの規模の社会に対応すると言われます。

これは一つの考え方ですが、現代社会で生きる私たちとしてもお互いをよく知ってお付き合いできる人の数を考えたとき、この数を超えることはないのでしょうか。

インターネットのある時代、つながりという言葉をここで用いるなら、何十万、何百万という人とつながっていると云えますが、

パンデミックの中で考え直すつながりは、^⑭それとは違うでしょう。情報社会になり、つながりはたやすくできるように見えるけれど、それによって生身のつながりが怪しくなってきたことに不安を抱き始めているのが今ではないでしょうか。

私たちにできることは、小さな集団を大切にすることです。

進歩・拡大・効率を求めて、グローバルなどという言葉を使ってきた社会のありようを見直して、地域に根差した、本当のつながりを大切にし、その集合体としての社会を考えていくのがこれからではないでしょうか。150人を単位とし、千人単位の村、数万人の町、数十万人の都市を組み立てるのです。その先に初めて地球全体が浮かび上がった時に本当の意味でのグローバルな社会になるのでしょうか。

地域の大切さに気づいて活動している人は増えていきますし、それぞれ素晴らしい活動をしています。地域の集まりとして日本列島に暮らす仲間が連帯するという形で、下から組み立てていく社会は安定したものであるはずです。

地域といっても特定の場に縛られることはありません。常に地球のあらゆるところとつながっているのですから、地球のどこに暮らしてもいいでしょう。さまざまな場を体験するのも楽しそうです。

（『ウイルスは「動く遺伝子」 コロナウイルスパンデミックから見えてきた、新しい生命誌のあり方』中村桂子^{なかむらけいこ}）

注1 パンデミック・・・感染症が世界的に大流行すること。

注2 霊長類・・・哺乳動物の中で脳が著しく発達した一類^{いちしる}。

問一 ― 部①「人間の最大の特徴は、二足歩行です」とありますが、筆者は「二足歩行」のおかげで、人間はどのようなことができるようになったと考えていますか。できるようにになったことをまとめた次の各文の□部A～Eに当てはまる言葉を書きなさい。

二足歩行の結果、

・手が自由になったことで□部A。

・脳の発達により□部Bを持ったことや、□部Cが発達したことで□部D。

・他者の心を理解して共感できるようになり、□部E。

問二 ― 部②・③・⑥・⑨・⑩のカタカナを漢字に直しなさい。

問三 □部④・⑤に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～カのうちからそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

ア だから イ つまり ウ それなら エ しかし オ 一方 カ しかも

問四 ― 部⑦「このような保育」とありますが、

(1) 「このような保育」とは、どのような保育のことですか。文中から四字でぬき出しなさい。

(2) 「このような保育」とは、具体的にどのような保育であると筆者は述べていますか。三十字以内で書きなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問五 ― 部⑧「共食」とありますが、これはどうすることを指しますか。文中から二十一字でぬき出しなさい。

(句読点は字数に入れます。)

問六 次の文は、本文中のどこに入りますか。最も適当な場所を【A】～【E】から選び、記号で答えなさい。

自分が手に入れたものは自分のものであり、しかたなく与^{あた}えることはあつても共食はないのです。

問七 — 部⑪「このように重層構造をもつ社会をつくったのが人間なのです」とありますが、「重層構造をもつ社会」とは、どのような社会のことですか。五十字以内で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

問八 — 部⑫「利己心」とありますが、どのような意味ですか。意味を簡潔に書きなさい。

問九 部⑬に当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 共同の体験、同世代で競い合うこと

イ 技術の習得、自らの力を高めていくこと

ウ 生身での接^{せつ}触^{よく}、同じ場を共有すること

エ 環境^{かんきよう}の充^{じゆう}実^{じつ}、多様な年代の人と仲良くなること

オ 対面での関わり、知識をより多く得ること

問十 — 部⑭「それ」とありますが、どのようなつながりのことですか。二十五字程度で書きなさい。

（句読点は字数に入れます。）

問十一 筆者は、「共感を基本に置く社会づくり」をするには、どうしたらよいと述べていますか。文中の言葉を使って、五十字以内で書きなさい。（句読点は字数に入れます。）

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(本文の表記の一部を変えています。)

〈中学三年生の直は野球部に所属している。直の父は昨年急死した。〉

①三日間、一人で考えつづけた。

最後の市大会に向けてみんなでがんばってきた野球をやめたくはない。けれど、市大会が開催される六月初旬までは、田植えもふくめて農作業はとくに忙しい時期になる。休日はもちろん平日だって朝と夕方にやらなければ、間に合わないだろう。

悩んだ②末にたどりついたのが、休部させてもらうことだった。ただ、雨の日や、特に仕事のない日は部活に出る。そして、市大会にはなんとか出させてもらいたい。

このことを、おれは万田先生に相談することにした。

でも、そんなに都合よく先生が許してくれるだろうか。もしかしたら、退部しろと言われるかもしれない。そう言われたら、それでもしかたがない。③おれは、緊張しながら、万田先生のところに行った。

先生はだれもない放課後の教室で、話を聞いてくれた。

「あの、しばらく、休部させてください。」

「休部？」

「たまには、出ます。」

うまく説明もできず、おれはただそれだけを切りだした。

「あ？」

万田先生はぼかんとしておれを見た。「なんだ、それ。本気か？」

「はい。」

「なんだ、人間関係か？」

「いえ。」

「じゃ、野球嫌きらいいになったか。」

「いえ。」

ふーんと、万田先生は腕組うでぐみしてため息をついた。それから、「どういうことだ…。」と④をかなめか上げた。

「地区大会出場を目指してみんなでやってきたんじゃないか。しかもおまえは打撃だげきでもチームの要だ。市大会まであと二か月あまりというところに来て、なんで休部したんだなんて言い出したんだ。」

万田先生に言われても、すぐにうまく答えることができなかった。

「地区大会が終わる七月まで、がんばらんか。」

「はあ…。」

おれは、口ごもった。

万田先生に引きとめられると、⑤決意けつぎが鈍にぶってしまいそうだった。あれだけ考えて決意したはずだったのに、まだ迷っているのかと、情けない気持ちになった。

万田先生は、「どうしてなんだ…。」と、おれの目をじっと見た。

「これから六月くらいまで、忙しくなるもんで…。」

おれは言った。小さい声になった。

「なんでだ？」

「あのう、田んぼ…。」

と、おれは口に出した。

「タンボ…？ ああ、田んぼ…。」

万田先生は、ぼかんと口をあけた。

「どういことだ…。」

と、先生はおれを見つめた。

「部活休んで、田んぼ、やろっかな、と…。」

顔が赤くなるのはわかったけど、この三日間考えて出した⑥ケツロンだった。

万田先生は真剣な目になって、おれを見つめた。

「あの、とうさんがやってきた田んぼ、荒らしたくないし…。」

声がふるえてしまった。

万田先生は黙っていた。

まっすぐ見つめてくる先生の目に耐えられなくなって、おれは目をふせた。

「二年、経ったな…。」

万田先生は静かな声で、それだけ言った。

⑦その言葉を聞いたら、ふと鼻の奥がつうんと痛くなった。

(やば…)

と、思って、「や、あの、田んぼ仕事、好きだし…。」と、あわててつけ加えた。しみったれた話になるのは、どうも苦手だ。

万田先生は深く一度うなずいて、黙った。「そうか…。」と、しばらく考えこんだ。

それから、「わかった。」と口を固くむすんで、おれを見た。

「休部は、認めない。」

と、万田先生はきっぱりと言った。

「え…?」

「それで、特別メニューを出す。…つてのはどうだ。」

「……………」

「特別練習メニューで、農作業。」

おれは、ぽかんとした。

万田先生は黙って立ちあがると、おれを残して教室を出ていった。

しばらくして、戻ってきた。古びたバットを片手に持っている。

万田先生はおれの目の前にそのバットを差しだした。かなり使いこまれた傷だらけのバットだった。

おれは促されるままに、バットを受けとった。ずっしりとした重量感が両腕に伝わった。硬式野球用のバットだろうと思った。

「おれが学生時代に愛用していたバットだ。」

万田先生は少しはにかむように笑みを浮かべた。

そして、「これを貸す。」と、言った。

「田んぼ仕事は、足腰がきたえられる。そして、仕事の合間に、素振りをする。」それから、ポケットから古びた練習ボールも取り出した。「土手にぶつけて守備練習もできる。」と、おれの手のひらにのせた。

万田先生はまっすぐにおれの目を見た。「そしたら、練習場所は違ってもたしかに野球部だ。学校での練習よりそっちの方がきついかもな。」

「……………」

「これでどうだ。」

と、万田先生は白い歯を見せて笑った。

何も言えず、おれは手渡されたバットを強くにぎりしめた。

ふいに、にぎったバットにぽたりと滴がしたたった。

あれっと思った時には、にぎりしめた両手もバットもゆがんで見えなくなっていた。

⑧ おれはしばらくバットをにぎったまま、肩^{かた}をふるわせて下を向いていた。

家に帰ってかあさんに、話した。

かあさんは、おれがかつてに部活の休部の申し出をしたことを驚^{おどろ}いた。

「先生がそんな課題を…。」

と、万田先生の特別メニューにも驚いたようだった。

「特別メニューで農作業？ 聞いたことないよ。」

美香^{みか}ねえがあきれたように言った。

「そんな部活なんてないよ。おまえちゃんと部活やんなよ。中学は全員部活制でしょ。」

美香ねえは、言った。

「だから野球部つづけるって言っとるだろっ。」

「練習にも出ないで、野球部だなんて言えるかよ。」

「野球部の特別メニューが田んぼの仕事だって言ってるだろ。」

「ばーか、そんな練習がどこにある。」

「先生がやれって言うんだから、いいんだ。」

「変な先生だなっ。」

美香ねえは、鼻をふくらませた。

「先生は、直の気持ち、察してくれたんだよ。」

黙っていたかあさんが静かに口を開いた。

「でもさ…。」

と、かあさんはおれの目を見た。「おまえが田んぼなんかやることないんだよ。」

「おれがやりたいから、やるんだ。」

そんな言葉が口から飛び出した。

おれは、かあさんの目をまっすぐ見返していた。

「やりたいって、おまえ…。」

かあさんが、言いよんだ。

ふと、夕陽を背中にアびて、がつしりした両腕で大型耕うん機をつかまえ、田んぼの土を力強く踏みしめて進んでいくとうさ
んの後ろ姿が思い出された。

その後ろ姿に、自分の姿が重なった。

(そうだったんだ)

⑩ 思いもせず飛び出した言葉だったけど、自分の言葉を聞いて、思った。

おれは、やってみたいんだ。

とうさんが好きでやっていた田んぼをおれも、耕うん機で⑪ 耕してみたい。

田んぼの手伝いを言いつけられていたころは嫌でたまらなかったけど、自分でやってみようと思うと力がわいてくるような気が
した。田んぼをやりながら、とうさんはどんなことを思っていたのか。それを知りたいと思った。

⑫ イジ張ってんだよ、こいつ。」

美香ねえが、かあさんにささやいた。

「田んぼは、子どもが部活がわりにやれるようなもんでないよ。」

かあさんは、言った。

「兼三さんから習う。耕うん機の運転も教えてもらおう。」

おれは考えていたことを言った。「兼三さんは小学校もろくに通わんで、百姓ひやうしやうやつてきたって言った。」
いつか聞いていた話を、おれはした。

「昔の人はみんなそうだよ。けど、いまとは違う。」

かあさんが、言った。

「高校に行かないで農業やる気かよつ。かつてにしな。」

美香ねえは、「ごちそうさま」と言つて茶碗ちやわんを流しに持つていき、自分の部屋へあがつていった。

『スウィング!』横沢彰よこさわあきら

問一 ― 部①「三日間、一人で考えつづけた」とありますが、直はどのようなことを考え続けたのですか。それを説明した次の

文の 部 A ～ D に当てはまる言葉をそれぞれ指定された字数で文中からぬき出しなさい。

(句読点は字数に入れます。)

A (三字)

をしながら

B (三字)

に出場できるよう、

C (二字)

を

D (二字)

すること。

問二 ― 部②・⑥・⑨・⑪・⑫のカタカナを漢字に、漢字をひらがなに直しなさい。

問三 ― 部③「おれは、緊張しながら、万田先生のところに行った」とありますが、なぜ直は緊張しているのですか。三十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問四 部④に入る語を漢字一字で書きなさい。

問五 — 部⑤「決意が鈍ってしまいそうだった」とありますが、どういふことですか。「決意」の内容を明らかにして、十五字以内で解答らんに合うように書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問六 — 部⑦「その言葉を聞いたら、ふと鼻の奥がつうんと痛くなった」とありますが、このときの直の様子を表したものとして最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選び、記号で答えなさい。

ア 万田先生の言葉を受けて、父の死が皆みなの中で過去のものとなっていることを感じ、涙がこぼれ落ちている様子。

イ 万田先生の言葉によって、父が亡くなった後から今までの苦労を思い出し、涙が止まらなくなっている様子。

ウ 万田先生の言葉で、父の田んぼを守るよりも野球をしたいという思いを明らかにされ、泣きそうになっている様子。

エ 万田先生の言葉に触れ、父が亡くなって時が経ったことを改めて実感し、その寂しさから涙をこらえている様子。

オ 万田先生の言葉から、父に代わり田んぼを守らなければならないと、その重圧から泣くのを我慢がまんしている様子。

問七 — 部⑧「おれはしばらくバットをにぎったまま、肩をふるわせて下を向いていた」とありますが、このときの直の気持ちを六十字以内で書きなさい。(句読点は字数に入れます。)

問八 — 部⑩「思いもせず飛びだした言葉だったけど、自分の言葉を聞いて、思った」とありますが、

(1) 「思いもせず飛びだした言葉」を本文中からぬき出しなさい。

(2) このときの直の思いを書きなさい。

問九 次のア～オの中から本文の内容に合わないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 直は、野球部の中で非常に実力のある選手であり、万田先生も直のことを野球部の主力として頼りにしていた。

イ 万田先生は、直が田んぼをすることに初めはあまり良い顔をしていなかったが、直の説得により考えを改めた。

ウ 万田先生は、直に自分のバットを渡すことで、農作業をしても直は野球部の仲間であることを伝えようとした。

エ 直は、なぜ自分が田んぼをやりたいと思っているのか、その理由を家族と話すまであまり自覚していなかった。

オ かあさんや美香ねえは、田んぼをしながら野球の練習を続けていく直のことを心配して、直の考えに反対した。